

Tiara

看護情報誌ティアラ 2018年10月

Nursing 最前線 ● 久留米大学病院

院内から地域へと

対策の輪を広げたい！

多職種と連携し

看護師が進める感染管理

Nursing 最前線 ● 武蔵村山病院

認定看護師が中心になって

認知症患者さんに対応

センターの開設で

院内体制もさらに充実

SCOPE 注目の話題 ● 柏崎総合医療センター

実際に聞いて、触って、楽しく学ぶ！

体験型企画展示「3する祭」開催

平成30年北海道胆振東部地震、
台風21号および平成30年7月豪雨により
被災された皆さまには、
心よりお見舞いを申し上げますとともに、
被災地の一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

院内から地域へと 対策の輪を広げたい！ 多職種と連携し 看護師が進める感染管理

久留米大学病院

2018年度診療報酬改定で抗菌薬適正使用支援加算が新設されるなど薬剤耐性が問題視される現在、感染対策はあらためて重要性を増しています。そのようななか、久留米大学病院感染制御部では、約5年前から、地域に向けた感染対策支援を積極的に展開しています。その取り組みの様子をご紹介します。



1

院内感染から医療施設関連感染へ 対策を地域へ広げる重要性

かつて、医療は病院内で治療が完了する院内完結型でした。しかし現在は、大学病院、中規模病院、クリニック、介護保険施設、自宅と、さまざまな場所が治療・療養の場となっています。これは感染対策においても同様なのです。

「当院でいくら感染対策を行っても、医療の場が変われば、患者さんが感染する（感染を広げる）可能性はぬぐえません。感染対策の対象は、医療施設関連感染へと広がりました。地域全体による対策強化を図る必要があると考えました」

こう話すのは、久留米大学病院感染制御部副部長の

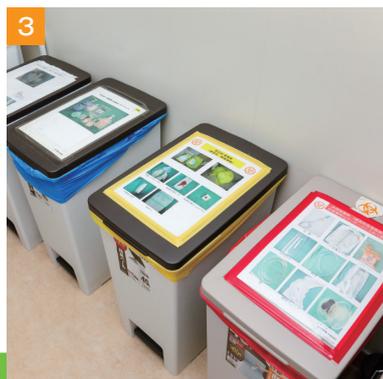
三浦美穂感染症看護専門看護師。同院が特定機能病院として中核的役割を果たしてきた、福岡県筑後地区に目を向けた展開を考えるようになったといいます。

その1つの契機となったのは、2012年度診療報酬改定での感染防止対策加算1と、感染防止対策地域連携加算の新設。加算1で得られた報酬を地域連携の費用に充てることが可能になり、その連携がさらに報酬増につながり、結果的に感染対策の強化が図られることになるためです。

「ちょうど院外からのコンサルテーションの依頼が増えてきた頃で、さらに、当院の高度救命救急センターでのMRSA検出数の6割が院外からの持ち込みだということがわかり、力を入れるべきときだと思いました」（三浦専門看護師）



2



3



4

1. 地域の感染対策を担う看護師を育成する研修会。認定臨床微生物検査技師から微生物学を学んだ

【同院東棟13階病棟での感染対策】

2. 処置や投薬の準備を行う準備室は、常に整理整頓しておく
3. 廃棄物ボックスは、入れるべき物の写真を添付してわかりやすく
4. 病室の入口脇に、リンクナース作成の手指衛生法を掲示



5

- 5. 年に数回、筑後地区内の病院（感染防止対策加算1を算定）が集まりカンファレンスを実施
- 6. 地域の看護師に向けた研修会では、感染制御専門薬剤師による薬学知識をテーマにしたものも
- 7. 三浦美穂感染症看護専門看護師



6



7

地域での病院同士の相互評価や 研修会の実施で対策を促進

取り組みの中心の1つは、感染防止対策地域連携加算の対象となる感染防止対策の相互評価です。同院と地域内の3病院の感染制御チーム（infection control team:ICT）が年に数回相互ラウンドを行い、それぞれの対策を評価し合います。

「これにより院内の感染対策は一気に進みました。自院内でつい見落としてしまっていたことを指摘されるとドキッとします。ICTメンバーだけでなく、院内全体へのよい刺激になりますね。おかげで、血流感染症の診断精度を高める血液培養2セット採取率が向上し、ベッドパンウォッシャー（差し込み便器・尿器の洗浄・消毒システム）の配置も進みました」（三浦専門看護師）

これらに加え、抗菌薬の適正使用率やガウンテクニク資材の使用量などからも、取り組みによる効果を判定しているといえます。

さらに、地域に向けた研修会の実施も、取り組みの大きな柱となっています。主に地域で感染管理教育の中心となる人材を育成するためのもので、看護師を対象に行っています。微生物学や薬学など感染管理に役立つ幅広い知識に触れる機会も提供しています。その一方で、歯科衛生士などを対象にした歯科領域の感染対策や、介護福祉士などに向けた感染対策の基本についての研修会も実施。地域の多様な現場での感染対策を後押ししています。

これらの研修で培ったノウハウは、2008年に結成された筑後感染管理トレーニング&カンファレンス（通称：CICTAC）に引き継がれ、筑後地区・大牟田地区の各所で研修会が実施されています。CICTACは、地区内の感染管理認定看護師を中心に

した24名のメンバーで構成されており、ゼネラルナースや介護福祉士などへの標準的感染対策の浸透に力を注いでいます。

感染対策の土台になるのは ゼネラルナースの日常的予防

三浦専門看護師は、ゼネラルナースこそ感染対策を推進するためのカギだと話します。

「感染対策の99パーセントは予防。そしてその予防を行うのがゼネラルナースです。手洗いや手袋の着用、点滴チューブ接合部の消毒、ハンドクリームの塗布など、自分たちが日常ケアの中で行っていることこそが重要なだと再認識し、継続してもらいたいですね。それが、院内の、地域の感染対策の土台になるのですから。これからも現場と話し合い、私の知識を活用してもらいながら、バックアップしていきたいと思っています」（三浦専門看護師）



DATA

久留米大学病院

福岡県久留米市旭町67
<https://www.hosp.kurume-u.ac.jp>
 開設 ●1928年 病床数 ●1025床
 職員数 ●2265名
 うち看護師1102名
 看護配置 ●一般病棟 7:1
 特定機能病院 / 日本医療機能評価機構認定病院
 地域がん診療連携拠点病院

認定看護師が中心になって 認知症患者さんに対応 センターの開設で 院内体制もさらに充実

社会医療法人財団大和会武蔵村山病院

「生命の尊厳と人間愛」を理念に「市民に信頼される市民のための総合病院」を目指している武蔵村山病院では、「認知症疾患医療センター」を開設するなど、認知症患者さんへの取り組みに力を入れています。同センターでは、認知症に対する保健医療水準を向上させるため、医療・介護の連携を図ることで、認知症の鑑別診断、合併症や周辺症状への対応、専門医療相談などを実施しています。同院の取り組みについてご紹介します。

認知症対策に力を入れている東京都では、各区市町村ごとに「認知症疾患医療センター」を整備しています。同院では2011年に「もの忘れ外来」を開設して以来、鑑別診断に力を入れていたことや、認知症患者のケアをチーム活動で対応していた実績があることから、東京都の応募に積極的に手を上げ、2015年9月に東京都の指定を受けて同センターを開設しました。

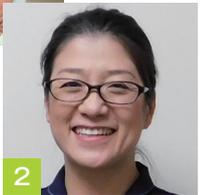
センター開設当時、認知症看護認定看護師であり、センター専従相談員として活動した副師長は、「当院の入院患者は高齢者が多く、身体合併症のある認知症患者も多かったため、院内全体で認知症対応に対する意識レベルは高いものがありました。また、もの忘れ外来を開設していたこともあり、センター申請への手上げはごく自然な流れでした」と言います。

同センターは、センター長（神経内科医師）、専従相談員（認定看護師）、MSW 1人、臨床心理士 1人な



1 「院内認知症対策委員会」のメンバー（2017年当時）。前列左から5人目が坂牧恵看護師。同院では認定看護師は紺色のナース服を着用し、認定看護師の「見える化」を図っている

2. 小柳貴子看護部長



どを配置しているほか、各部門からの協力も得て、放射線医師や理学療法士、作業療法士、薬剤師などの多職種で対応する体制が構築されています。専従相談員には、副師長の後を受けて坂牧恵看護師（認知症看護認定看護師）が就き、活動の幅がさらに広がりつつあります。『もの忘れ外来の患者家族会』や地域に向けての『オレンジカフェ（認知症カフェ）』、さらには認知症初期集中支援チーム（市の委託事業）など、相談業務以外にも活動が増えました」と話す坂牧さんの言葉にも、活動の充実ぶりがうかがえます。

早期鑑別診断・早期治療を呼び掛け 市民講座や家族会、電話相談も実施

同センターの活動の1つである「もの忘れ外来」（完全予約制）の年間初診患者数は、約150人を超えます。同外来では「1人ひとりの患者さんに時間をかけるの



3. 坂牧看護師が企画した「療養病棟の夏祭り」。患者の表情が見違えるほど明るくなった

4. 副師長のアイデアで開始した院内デイ「つむぎ」での体操風景



5



6

5. 患者家族に対して面談する坂牧恵さん

6. 認知症対策委員会の様子。活発な意見交換が行われている

が特徴」(坂牧さん)であり、認知症の程度が進んだ患者さんよりも、グレーゾーンから初期の患者さんが多いといいます。同院には精神科がないため、精神症状や行動症状が強く、入院が必要な患者さんには提携精神病院を紹介していますが、「国も認知症施策に力を入れていることから、早期の鑑別診断・早期治療の流れができてきたと思います」と副師長は言います。

さらに同センターでは「認知症市民公開講座」を年4回シリーズで開催し、市民に早期の鑑別診断を呼び掛けていることも、この流れにつながっています。隔月で行っている「もの忘れ外来の患者家族会」は、認知症患者の家族として同じ悩みをもつ人が意見交換する場として、参加者からも好評を得ています。

「もの忘れ電話相談」は、看護師のほか、精神保健福祉士、社会福祉士が交代で担当。「もの忘れが気になるが受診したほうが良いか?」「運転免許更新時の診断書を書いてもらえるのか?」など、1カ月平均約300件の相談を受けています。「認知症が進み、運転免許の更新をあきらめざるを得ない方には、バス路線や通販の情報を提供したり、ヘルパーの調整も行っていますが、まさに、生活支援そのものです」と副師長。認知症患者やその家族が集い、お茶を飲みながら交流を深める「オレンジカフェ」も隔月で開催していますが、毎回10人ほどの参加があり、地域にも定着してきています。

「院内認知症対策委員会」メンバーをはじめリンクナースもケア水準の向上に貢献

「BPSDなどの症状を落ち着かせるためには、薬だけではなく、レクリエーションやリハビリを取り入れて、ほかの人と楽しく交流してもらうことが必要です」(副師長)との考えから開始したのが「院内デイ」です。認知症看護認定看護師を中心に、多職種が連携して週2回、2時間の集団レクを行っています。

「ただ楽しいだけではなく、季節のことや地域のこと、その人がかつて打ち込んだことや趣味などを取り入れて、脳を刺激することを心掛けています」(坂牧さん)。また、

酸素や点滴ポンプが付いている患者さんは院内デイに参加することが難しいため、これらの患者さんを対象にした「病棟レク(院内デイミニ版)」を実施するなど、細かい対応にも気を配っています。

これらの活動のほかに、多職種による「院内認知症対策委員会」(メンバー15人)が組織されているのも特徴です。各病棟の認知症ケアの水準を高めるため、リンクナースとして活動してもらい、多職種が抑制件数や困難事例などを話し合っています。まさに、病院を挙げて認知症患者への対応(ケア)に取り組んでいることの表れです。

「認知症は認知症看護認定看護師が対応すればいい」ではなく、現場の看護師すべてが対応できるようにするのが私たちの努め」と副師長は言います。また坂牧さんも「認知症患者さんやご家族の悩みをできるだけ受け止めて、それにどう対応していくか。私たちの業務にこれで完全というものはありません」と言い、積極的に今後を見据えています。

看護部長であり、糖尿病看護認定看護師でもある小柳貴子さんは、これら認知症看護認定看護師の活動について「彼らの活躍には本当に満足しています。私が考えていることをすぐに具現化してくれます。100点満点をあげてもいいですね」と話し、日ごろからの高い信頼がうかがえました。



DATA

社会医療法人財団大和会 武蔵村山病院

東京都武蔵村山市榎1-1-5

<http://www.yamatokai.or.jp/musasimurayama/>

開設 ● 1951年 病床数 ● 300床

看護師数 ● (常勤換算) 239.7人

看護配置 ● 7:1

● 日本医療機能評価機構認定病院 / 東京都地域救急医療センター / 地域連携型認知症疾患医療センター / 東京都女性活躍推進大賞受賞

実際に聞いて、 触って、楽しく学ぶ！ 体験型企画展示「3する祭」開催 「褥瘡・感染・安全対策リレーキャンペーン 3する運動」の取り組み



会場内は大盛況

柏崎総合医療センターでは、2017年度から医療安全における複合的教育キャンペーンを行っています。その名も「褥瘡・感染・安全対策リレーキャンペーン 3する運動」。同キャンペーンでは、啓蒙事業や研修会などさまざまな取り組みを多角的に行っており、その1つである体験型企画展示「3する祭」が、2018年7月31日に行われました。その会場にお邪魔しました。

疑問解消や最新情報入手の場は 多くの職員を集め大盛況

「3する祭」では、褥瘡・感染・安全対策という3つのテーマにかかわる各種企業が出展。柏崎総合医療センターで現在使用されている医療機器や医療材料、新たな新製品などを紹介しています。16時30分から19時30分までの開催となっており、その間職員は自由に入出し、展示品に触れたり、企業の人に質問したりすることができるようになっています。また、会場内には飲み物やお菓子が準備され、だれでも気軽に足を運べるような工夫も凝らされています。

31日当日、展示が行われる同センターの7階講堂には、開始時間を過ぎると、次第に職員の皆さんが姿をみせるようになりました。皆さん最初は遠慮気味に展示を見ていましたが、出展者と言葉を交わすうちに、製品に対する興味が高まったようで、次々に質問を投げかけるようになりました。

「この手順で操作しなければならない理由は何ですか」

「これはどんな患者さんに適しているんでしょう」

業務を終えた看護師の皆さんがやってくる17時過ぎには、会場内は大混雑。質問する活発な声が聞かれる一方で、久しぶりに顔を合わせた他職種の人と情報交換を行うグループがみられるなど、思い通りに展示会を活用する来場者の姿がありました。

同展示は、出展企業を変えて10月にも行われる

予定。昨年度には3回実施され、延べおよそ300人が来場しました。

課題であった「予防」をキーワードに キャンペーンが誕生

このユニークなイベントは、学会等で行われている企業展示にヒントを得て企画されました。

「企業の展示を見たり、説明を聞いたりすることで、製品を通して各分野に興味をもってもらえるのではないかと思います。さらに、最新のデータに基づき開発された各企業の新製品に触れ、体験学習することで、新たな知識を楽しく習得できるのではと考えたのです」と話すのは中村文枝さん（皮膚・排泄ケア認定看護師）。徳原伸子さん（感染管理認定看護師）、大倉里美さん（看護部医療安全対策委員会委員長）らとともにこのキャンペーンを立ち上げました。

立ち上げのきっかけは、それぞれが抱える悩みでした。「褥瘡」「感染」「安全」の分野に日常的にかかわっている3人は、「予防」を重要な課題として捉えていました。そして、院内の現状をまだ十分ではないと感じており、どうすれば徹底できるかを模索していたのです。

「予防は、“起こさないため”に行うもので、地道な取り組み。ほかに何か業務があれば、どうしても後回しになりがちです。職員にその予防を行う意味に興味をもってもらうことで、しっかりと根付かせていきたかったのです」（徳原さん）

そこで「予防」を共通のキーワードにした複合的



2017年度「3する祭」では祭りをイメージさせる演出も

キャンペーンを立案。それが、「背抜きをする」「アルコールを擦る」「確認する」を徹底させるための「3する運動」となりました。各分野の委員会がリレー方式で啓蒙活動や研修会を行い、年間を通して「予防」の定着を促しています。

2017年度に看護部の取り組みとしてスタートしたこのキャンペーンは、翌2018年度には病院全体の取り組みとなり、全職員を巻き込むまでになっています。

みんなが楽しんで取り組めることが続けられるポイント

キャンペーンは4月から12月までの9カ月間で展開。感染→褥瘡→安全対策と2カ月ごとにテーマがリレーされます。

キャンペーンの柱は3つあり、その1つが啓蒙活動です。掲示板や壁へのポスター掲示に加えて、リマインダーとしてPOPを作成し、パソコンやペーパータオルホルダーなど目につく場所に貼り付けることで一層の周知を図っています。さらに、部署ごとに応募する川柳コンテストも実施。優秀作品は表彰されるとあって、職員の熱も高まっており、積極的に応募があるといえます。

2つ目の柱は研修会。間違い探しやグループワークなどを取り入れ、参加者が楽しみながら学べるような工夫をしています。また、川柳の審査結果もこの研修会で発表されます。

そして最後が今回開催された参加型企画展示「3する祭」です。いまやキャンペーンの象徴的な催しになっています。

「語呂合わせのような形で『3する運動』というネーミングを考えたのも、少しでも印象に残り、親んでもらえるようにするため。参加する職員も、企画する側も、楽しんでキャンペーンに取り組めることが大切だと思います。でなければ、続けることはできません。2年目を迎え、少しずつですが、職員に予防意識が根付いてきたように感じています。これからも楽しみながら、みんなで取り組んでいけたらいいですね」(大倉さん)

来年度はどのような展開がみられるか楽しみです。

新潟県厚生農業協同組合連合会
柏崎総合医療センター

新潟県柏崎市北半田2-11-3

「3する運動」を支えるメンバーたち



楽しくをモットーとした「3する祭」らしい飾り付けも



「3する祭」では実際に体験して操作方法を確認できる



研修会の様子。図を用いてわかりやすく説明



「3する運動」の啓蒙ポスター(左)リマインダーとしてのPOP(右)も活用



自分なりに看護に向き合い頑張っている人を紹介します！

私の看護スタイル

vol.1

「安心」が 私の手術看護のキーワード

島村 麻実さん

防衛医科大学校病院手術室副看護師長
手術看護認定看護師／医療安全管理者

患者さんの思いを守り 「安心」につながる

手術看護認定看護師の資格を取得する1つのきっかけになったのが、母の緊急手術でした。それまで10年以上手術看護とかかわってきた自分でさえ、患者家族になるとこんなに不安になるんだということに驚き、患者さんや家族に対する手術看護を見直してみたいと思ったのです。それ以降、私にとっての手術看護におけるテーマは、患者さんや家族にとっての「安心」。もちろん、医師やスタッフがスムーズに安心して手術に取り組めるよう、よりよい看護を提供したうえで、患者さんが「安心」して手術に臨めるようにすることに目を向けていきたいと考えています。

その1つが患者さんの代弁者としての役割です。例えば、乳がんの手術中に、医師が念のためにと予定より大きく乳房を切除しようとしたとします。しかし、患者さんの希望は「なるべく乳房を温存したい」。そんなとき、

麻酔で眠っている患者さんの思いを医師に伝えられるのは看護師しかいないのです。患者さんの生命を守るだけでなく、患者さんのこれから



術前説明は患者さんとの信頼を築く数少ないチャンス

の人生にも目を向け、患者さんの思いを守ること——それが手術を受ける患者さんの「安心」につながるのだと思います。

しかし、残念ながら手術室看護師が患者さんと向き合う時間はごく限られています。そのため、私は術前訪問を重視しています。その間に患者さんの思いをくみ取り、信頼関係を築くことは重要な看護なのです。私の場合、「あなたの味方ですよ」という思いで患者さんに接し、面会の最後に必ず「一緒に頑張りましょうね。よろしくお願いします」と声をかけ、握手をするようにしています。訪問時間は15分足らずですが、患者さんは安心されるようで、手術当日には「よろしくね」「頑張るよ」と笑顔を見せてくれることが多いですね。

より必要となる術前患者さんの フォローの場を増やしたい

地域包括ケアシステムの構築が進められるなか、手術は外来で決定され、患者さんは術直前に入院することになります。理解が不十分だったり、不安を抱えたまま手術を迎える患者さんは少なくないでしょう。そこで私が考えているのは、近年みられ始めた「術前外来」の開設です。現在でも、麻酔科外来でハイリスク患者さんに対する術前指導は行っていますが、もっと多くの患者さんを外来でフォローしたいと思っています。そしてゆくゆくは、手術予定の患者さんに限らず、だれでも手術についての相談ができる看護専門外来をもてたらいいなと考えています。

私の キラキラ

この歳にして新しい生命を授かりました。その報告をしたら、職場のみんなが安産の御守りをくれたのです。やがてその数は次第に増え、自宅に「安産御守りコーナー」(写真)なるものができるまでに。その御守りを見るたびに、周囲の人たちに助けられ、今の自分があることを実感し、温かい気持ちになります。わが子の存在と共に、そんな仲間が今の私の宝物です。



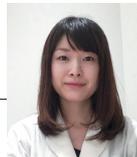
心のモヤモヤを
スッキリ解決!

ナースの ストレス攻略術

vol.2

解説

ベスリクリニック 保健師
木村豊美さん



今回のストレス

ある患者さんが自分だけに厳しい態度。
どうしたらよいのかわかりません。

ラポール形成の視点を取り入れて

アメリカの看護学者・トラベルビーは、著書『人間対人間の看護』で、①出会い、②同一性の出現、③共感、④同感という経過をたどって、⑤ラポール形成（信頼関係の形成）に至ると述べています。これに沿って考えると、あなたとその患者さんとの関係は②の段階で、お互いの人となりを探っているのだと思います。態度の良し悪しにかかわらず、出会いから次の段階に進んだといえるでしょう。患者さんの態度には落ち込むかもしれませんが、出会ったときよりも1人のスタッフとして認められており、それは今後変化していく可能性があります。

患者さんの態度には、何か原因があったり、過去に出会ったほかの看護師と重ねていたり、あなたに原因がない場合もあります。これは考えてもわからないこと。態度のみにとらわれず、お互いがラポール形成のために必要な過程にあることを認めてあげてほしいと思います。

でもどうしても患者さんの態度がづらいなら、自分の感情を無視しないで、少し距離をおくのもお勧めです。自分を犠牲にせず、必要以上に責めず、思い切って距離をとることが、関係性を深めるために有効なこともあります。お互い客観的になることができます。

ラポール形成の過程にあることを認めただうえで
一時的に距離を取ることも考えてみましょう。

Let's 看護 みかき

看護の学びに
役立つ情報を紹介します

vol.2

看取りケア プラクティス×エビデンス

■ 宮下 光令・林 あり子



看取りケアの根拠と実際
あなたはいくつ説明できますか？

看取り期の患者さんや家族が残された時間を大切に過ごすための支援の仕方を教えてくれる1冊です。

看取りケア プラクティス×エビデンス 今日から活かせる72のエッセンス

宮下光令／林あり子 編
南江堂
3000円（税別）

看取り期のケアを、基本編と応用編の計72項目で解説。各項の著者はすべて看護師で、看護現場の疑問が的確に捉えられ、すぐに活用できる内容となっています。ケアの裏付けとなるエビデンスが示されているため、臨床実践の拠り所にもなります。終末期～臨死

ナースが地域の自慢のおみやげをご紹介します！

自慢の／

今回の推薦者



柏崎総合医療センター
看護部長
猪俣敏子さん

おみやげ Collection

vol.2
新潟県

ほんのびまんじゅう



「ほんのり」と「じょんのび（方言でのんびりの意）」から名付けられたおまんじゅう。黒糖とハチミツを使ったモチモチとした皮としっかりとした餡に癒されます。手土産にしても好評。1個90円（税別） 大和屋菓子舗 0257-41-5111

どうしたらいいっ?

お助け! 接遇 Q&A



看護の中で出会いがちな
接遇にかかわる困りごとに答えます

解答

株式会社 C-plan 代表取締役
小山美智子さん

vol.2

Q.

患者さんや家族との面会するとき、
相談室でどのように座ればいいのか
迷います。基本的なルールや相手
に配慮すべきことはあるの？

A.

患者さんとは適切な距離を保ち、
不安な印象や緊張感を与えないよう
に配慮しましょう。

基本的に、患者さんと1対1で話をする際は、90度の位置に座ることが最もよいといえます。相手のパーソナルスペースに入り、親近感を与えながら話をするので、話の内容をしっかりと聞いてもらえます。目線の高さは患者さんに合わせ、ほどよい距離を保つようにしましょう。

最も注意したい位置関係は向かい合わせ。対立関係になりやすく、緊張感を与えてしまうので注意しましょう。どうしても向かい合わせで座らなければならない場合は、若干でも左右にずれたり（心臓と心臓を合わせるくらい。

若干でもずらすことにより緊張が緩和される）、話し方やノンバーバルコミュニケーションに注意し、相手の様子に配慮して話をするのが大切です。

ノンバーバルコミュニケーションとは、言葉を使わないコミュニケーションのことで、「表情」「アイコンタクト」「しぐさ」などのことをいいます。相手をよく見て、相手に合わせたノンバーバルコミュニケーションを行うことは、患者さんやそのご家族に安心感を与え、誤解を与えてしまうことを防止できます。ぜひチャレンジしてみてください。

医療研修施設

ニプロ IMEPに 行ってきました!!

新人ナース

ベテランナース

せっ先輩~!!
エラー音が
止まりません!!

この部屋では、
患者さんの状態を細かく設定して、
実際の急変時にどう動けばよいかを
シミュレーションできるのよ。
現場に近い状況で研修できて、
新人ナースにもってこいね。

在宅用の
トレーニングルームも
あるんですね。

ここでは主に
薬剤師さんが研修を
するのよ。調剤をするための
クリーンベンチもあるのよ。

こんな感じ
ですかね?

コラ!
遊ばないの!

一軒家ようになっていて、
ポータブルトイレや、
隣にはバス、キッチンも
揃っているのよ。
実際の状況に近い形で
研修できるの!

施設 DATA

「医療研修施設 ニプロIMEP」

〒525-0055 滋賀県草津市野路町3023番地
3階建て 研修室数17室

各研修室には最新の同時録画装置を設けており、館内での
ライブ配信学習、録画振り返り学習はもとより、WEB回線を用
いることで世界中に配信も可能

医療関係者向け講習会のお知らせは下記よりご確認ください
(URL)
http://med.nipro.co.jp/imep_society



NIPRO